



構造と機能が つながる 神経解剖生理学

坂井建雄、小林 靖、宇賀貴紀＝編

定価: 8,250 円(本体 7,500 円+税 10%)
A4・280 頁/医学書院/2024
[ISBN978-4-260-04813-2]

やっと画期的な本が出版された

評者 宇川義一 福島医大名誉教授・脳神経内科学

私が学生の時には、解剖学・組織学(ミクロ解剖)・生理学・生化学・薬理学などの講義を受けた後に、それらの知識を自分なりに統合して、神経系に関する基礎知識を整理した。それぞれの学問を修得するのにかなりの時間を要し、医学部の4年生頃からでないと総合的に理解することができなかった。

本書では、それらの知識が話題ごとに見開き2ページで整理されている。神経系を全体的に理解するのに最適なテキストであり、多くの医学生の助けとなるであろう。また、最新の研究成果の一部も紹介されているので、知識のアップデートにもなる。さらに、理解を助けるきれいなイラストがふんだんにあり、わかりやすさを際立たせている。

臨床現場で遭遇する疾患の病態生理に関しても簡潔に記載されている点が、本書のもう1つの特色である。この部分は、臨床医が患者を診たときにすぐに参考のできる側面もある。また、「第8章 脳の高次機能障害」を除く大部分が3人の編集者自身による執筆であり、本書全体の統一性と読みやすさにつながっている。これらのことを踏まえて、以下の2つの使い方が考えられる。

◆学生が神経系の授業を受けていく時の指南書

学生が解剖学や生理学といった科目を学ぶとき、本書があればその科目の神経機能的側面を理解しながら、その詳細を学び進める助けになる。ターゲットの話題が全て理解できなくても、その位置付けを理解しつつ勉強を進めることができる。したがって、解剖学・生理学・生化学などの講義のたびに、同じ箇所を何度も読むことになるだろう。これは、学問の修得は同時並行かつ繰り返し行うべきで、一度聞いたことは一度で全て理解できるわけではなく、何度も聞くことによって自分のものとなるという理論と合致している。そして、学年が進むにしたがって、本書で述べられている内容を十分に理解できるようになるだろう。

また、本書の序にもあるが、神経に関する臓器別統合型授業において、特に最適な教科書となるであろう。

◆臨床で忙しい医師がそれぞれ話題となる知識の確認

臨床現場にいる神経系の医師は、本来は本書に書かれた内容を周知しているはずである。しかし、忘れていたことあれば、曖昧になっている点もある。それらの知識をコンパクトに復習でき、臨床現場で助けとなる。話題ごとにとまっているため、素早く読みたい箇所を確認できるし、最新の知識に触れることで、専門書で調べるきっかけになることもあるだろう。

ただし、本書を読めば、全てのことが理解できるわけではない。いずれの話題も2ページでコンパクトにまとめられているので、全体像を効率よく理解できるが、さらに詳細に理解を深めたいときは、それぞれの分野の成書や論文に当たる必要がある。そのきっかけとなる書籍である。

